～ちょっと気になる感染症～

手足口病について

◆　手足口病とは

エンテロウイルス、コクサッキーウイルスによって起こる感染症です。４歳以下の乳幼児を中心に、主に夏に流行します。２歳以下が半数を占めますが、学童でも流行が見られることがあります。あまり多くないですが、成人も発症することがあります。

◆　症状について

潜伏期間は３～５日です。

口の中、手の平、足に水疱性の発疹が出ます。肘、膝、尻に発疹が出ることもあります。

発熱は約３分の１に見られますが、３８℃以下のことがほとんどです。多くの場合は数日で自然に治りますが、まれに髄膜炎、脳炎などの合併症を起こすことがあります。

◆　感染経路について

飛沫、接触、糞口（便の中に排出されたウイルスが口に入る）で、感染します。

症状が治まった後も、３～４週間は便にウイルスが排出されることがあります。

また、原因となるウイルスが複数種類あるため、他の種類のウイルスに感染し、再度、手足口病を発症することもあります。

◆　治療について

手足口病に特別な治療方法はありません。症状に応じた治療になります。

高熱が出る、発熱が２日以上続く、嘔吐する、頭を痛がる、視線が合わない、呼びかけに応えない、呼吸が速くて息苦しそう、水分がとれずおしっこが出ない、ぐったりしているなどの様子が見られる場合は、医療機関の受診を検討しましょう。

◆　予防について

〇流水と石けんで手洗いをしましょう。

感染者は排便後を中心に、こまめに手洗いをしましょう。オムツ交換後や回復後も手洗いが大切です。

〇複数人で同じタオルを使うことは避けましょう。

〇乳幼児の排泄物を適切に処理しましょう。

手足口病は、治った後も３～４週間は便中にウイルスが排出され、また、感染しても発病しないままウイルスを排泄している場合もあります。排便後のオムツは、袋に入れて袋の口をしばるか、ふた付きのゴミ箱に入れ、空気中にウイルスが浮遊しないようにしましょう。

大津市保健所保健予防課　感染症対策係　077-522-7228